

神奈川県金融経済概況（2018年7月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに拡大している。

輸出と設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するもとの持ち直し。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は増加している。こうした中、生産は緩やかに増加している。この間、企業の景況感
は改善基調にある。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 増加している。

- ・ アジア向け金属加工機械や米国向け自動車部品を中心に増加している。この間、18/6月短観における18年度の輸出計画（製造業）をみると、高い水準であった前年度を幾分下回っている。

(2) 生産： 緩やかに増加している。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低調ながら、国内向けトラックが増加しているほか、乗用車も底堅く推移しているなど、全体として持ち直している。
- ・ 素材関連は、一部先でみられた定期点検等の影響が剥落する中、鉄鋼や化粧品が増加していることから、全体として持ち直している。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器が緩やかに減少している一方、自動車向け製品等が増加していることから、緩やかに増加している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、金属加工機械や半導体等製造装置が好調なことなどから、増加している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 18/6月短観における18年度の設備投資計画は、好調な内外需要や収益改善を背景に、能力増強投資や更新投資、省人化投資等を上積みする動きがみられている。この結果、前回調査比上方修正され、前年度を2割弱上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。

- ・ 18/5月の有効求人倍率（勤務地ベース）は、統計が公表されている05/2月以降で最も高い水準となった。こうしたもとで、常用雇用者数と名目賃金は増加基調にあり、雇用者所得は着実に改善している。

(5) 個人消費： 持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、衣料品が低調である一方、化粧品が好調なほか、身の回り品も堅調であり、緩やかに持ち直している。
- ・ スーパー売上高は、生鮮野菜の価格下落の影響がみられるものの、気温の上昇から飲料等が伸長していることなどから、緩やかに持ち直している。
- ・ 家電販売額は、買替需要の増加を背景に、白物家電やテレビ、携帯電話などが堅調なほか、気温の上昇からエアコンや扇風機といった季節家電も増加していることなどから、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、主力車種のモデルチェンジや新型車投入による押し上げ効果の一巡がみられることなどから、増勢が一服している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部で天候要因を受けつつも、総じてみれば好調となっている。

(6) 住宅投資： 弱めの動きとなっている。

- ・ 18/5月の新設住宅着工戸数は、貸家、分譲マンション、分譲戸建て、持家のいずれも減少し、全体では前年を3割程度下回った。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 18/6月の公共工事請負額は、市町村が減少した一方、独立行政法人や国などが増加したことから、全体では前年を2割強上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：4月+1.8%→5月+1.7%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き緩やかに低下している（月末貸出約定平均金利：4月1.151%→5月1.149%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：4月+2.7%→5月+2.5%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。